

総務の 365日

守りから攻め。 そして役割創造型総務へ。

全国総務部門アンケートから見えた、業績に貢献する総務部門の姿とは。

執筆：『月刊総務』編集長 豊田 健一

総務が感じている課題の第一位は 総務の在り方

全国総務部門アンケートの設問、「総務部門の課題について」で、最も多かった回答は「業務の明確化・効率化」という項目でした。これには二つの意味があります。一つ目は、全社において総務部門が何を目標に、どのような業務をしているのかが明確になっていないということです。多種多様な業務をしている総務部門が何を目指しているのか、総務部門自身が明確な意思表示をしていないので、他の部門には判然としていないのです。結果、何でも屋としてしか見られず、評価もされにくいという状態に陥ってしまっています。

二点目は、総務部門内においても、各自がどのような業務を、どのようにしているかが明確でないということです。属人化の最たる部署ですから、Aさんが不在であると、Aさん担当の業務については他の総務部メンバーでは対応できないという状況がありがちです。属人的であるため見える化がされておらず、結果、業務の効率化がなし得ない。そのような状態に陥ってしまっています。全社での部門の立ち位置の明確化と自部門内での業務の明確化が大きな課題となっています。

総務の役割は、守りの総務から 攻めの総務へ

そのような実態の中、総務の在り方として問われているのが、守りの総務と攻めの総務、つまり管理総務から戦略総務への転換が重要課題となっています。

ここで言う守りの総務とは、「社内のサービス・スタッフ機能」として、庶務業務、文書作成・管理、福利厚生など、企業活動を円滑に進めるためのスタッフ業務を担います。さらには「全社コミュニケーションのパイプ機能」として、調整業務や全社マターを傳達で周知徹底を図ったり、部門間の利害の調整を図る業務が該当します。

一方、攻めの総務とは、「経営層の参謀役」として、経営層の意思決定、その他の経営的な業務に必要とされる情報提供や

アドバイスをを行います。さらには「全社的活動の推進役」として、株主総会、入社式、社員総会など全社的イベントの事務局業務が該当するでしょう。

守りから攻めという考えは、守りの総務をしなくていいというわけではありません。BCPなど大切な守りの業務も存在します。守りだけでなく、攻めの業務、つまりは総務部としての意志をもって、戦略的に行う業務の割合を増やしていく必要があるのです。

そして役割創造型総務へ

もう一つ重要な視点があります。例えば、全国総務部門アンケート、総務部門の課題で第二位に挙がった項目は経費削減でした。多くの企業で、経費削減をやり尽くし、他の手立てが考えられない、そのようなコメントが数多く寄せられました。このような課題解決を図る場合、取るべき手段は、従来業務をゼロベースで見直すことです。その際の心得とは「総務の仕事は何をしているかではなく、企業に何をもたらしているかが大事である」という言葉に立ち返って発想することです。

従来業務をゼロベースで見直す際、その業務が企業にどのような貢献をもたらしているか、という視点で見直すことをオススメします。従来やっている業務だから継続するのではなく、一度そのような視点で見直すことが、環境変化の激しい現在では重要です。その延長として、経営から、現場から総務部門は何を期待されているのか、いま一番必要な総務部門の役割は何なのかを自らに問い、最も貢献度の高い業務を中心とした役割を創造していく。

このような「役割創造型総務」が望まれています。

総務は、経営と現場への貢献度の高い業務です。経営と現場の両者とのやり取りの中で、両者から総務に期待される業務にフォーカスすることで、総務部門が何を目指し、何をしようとしているのかが明確になります。先に記した、総務部門の課題も解決でき、さらに企業に貢献する「役割創造型総務」。一度考えてみてはいかがでしょうか？



豊田 健一
『月刊総務』編集長

●早稲田大学 政治経済学部 卒業 ●株式会社リクルート入社 経理、中途採用媒体の営業、総務、販売会社の計数管理を担当 ●株式会社魚力入社 総務課長として本社移転、株式公開を経験 ●ウィズワークス株式会社入社 日本で唯一の総務専門誌「月刊総務」の編集に携わり、社内広報の研究とコンサルティングも担当 ●2012年6月より、「月刊総務」編集長、ナナ総研主任研究員に就任。



東邦電子 株式会社様

〈オフィス移転の狙い〉

- ① **企業の成長を担う若手の技術者を確保・育成したい。**
- ② **よりすぐれた製品開発風土を生むオフィスにしたい。**

■ エントランス・来客エリア



■ エントランス

建物外観とのつながりを大切にした先進的なデザインのエントランス。若い技術者に共感してもらえるような都会的なデザインを意識しました。

■ 来客ゾーン

オープンな雰囲気を出すために、会議室のパーティションは、上下をガラスにすることで開放感を出しました。



外部の方から、今までのイメージが一新されて、「ホテルのような洗練された印象になったね」とおっしゃって頂けました。

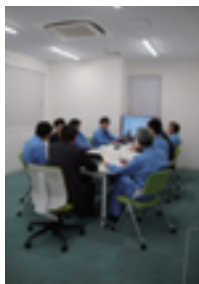


■ コミュニケーションスペース



■ 食堂スペース

食堂スペースは、従来イメージをガラリと一新して、執務スペースとは、かけ離れたカジュアルなデザインに。



■ コラボスペース

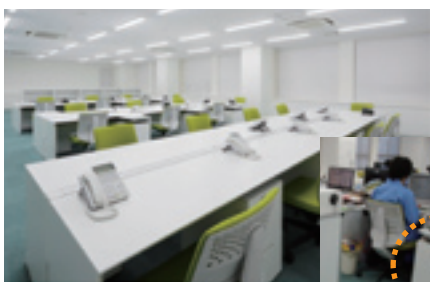
執務スペースの隣には、さっと集まってミーティングできるようなコラボスペースを設置。モニターを見ながら気軽に打ち合わせが行えます。

食堂スペースは、食堂としての利用だけではなく、社員のミーティングの場としても活用。コミュニケーションが活発になり、自由で風通しの良い社風づくりに役立っています。

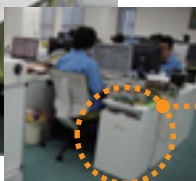


■ 執務スペース

営業・技術開発・総務がそれぞれの働き方に合わせて「個々が使うスペース」を変えられるように、一枚天板の大型デスクを採用しました。



技術部は、設計・開発業務の効率UPのため、デスクと同じ高さの天板付きワゴンを導入。開発用の部品や大きな図面も広げやすいように、机上面のスペースを広くしました。



新しいデスク・イスで働きやすくなったと好評。そのうえ、自分で整理整頓の工夫をしたり、週2回社員全員で掃除をしたりと、オフィスをきれいに維持しようという意識が芽生えました。



社員が自慢したくなるような働きやすいオフィスになりました。

お客様情報

東邦電子株式会社

所在地：神奈川県相模原市緑区

会社設立：1963年10月

従業員数：190名

事業内容：各種温度センサ及び制御機器の設計・開発、
半導体ウエハー計測用プローブカードの設計・開発